

## 地域文化功労者表彰の被表彰者功績概要について

### ○ ながさきけんがっしょうれんめい 長崎県合唱連盟

昭和 22 年 10 月設立 理事長 いとう しんじ 伊藤 信二

同団体は、昭和22年に長崎の街に平和の願いと、歌により生活の中に希望を育むことを目的に発足し、75年以上の長きに渡り、県内各地で活動を行ってきた。

「九州合唱コンクール長崎県大会」、「長崎県おかあさんコーラス大会」、「ヴォーカル・アンサンブル・フェスティバル」など、小学生から大人まで幅広く参加できるコンクール開催を主軸に、クリスマスチャリティーコンサート、合唱講習会などの活動も行っており、県民に合唱を楽しめる場、研鑽を重ねる場を長年提供している。

コロナ禍で中止になった令和2年を除き、昭和30年から毎年開催している「合唱祭」は、趣向を凝らした演出・演奏を披露するなど、合唱人口を増やすための創意工夫を行い、毎年2千名近くが来場し、長崎の芸術文化の振興・普及に寄与している。

また、同団体はこれまでに佐世保市文化功労賞のほか、長崎県地域文化章・県民表彰を受賞する一方で、加盟団体からは合唱コンクール全国大会出場など優秀な成績を収める団体を輩出しており、本県の合唱技術の向上、音楽文化・地域文化の振興に多大な功績を残している。



ながさきしゃぎりほぞんかい  
○長崎シャギリ保存会

昭和 49 年 10 月設立 会長 いけだ いさお 池田 勇夫

長崎シャギリの起源は、江戸時代の 18 世紀中期と考えられ、幕末(19 世紀中期)頃には、長崎近郊の長崎村片湊郷・本河内郷の人々によって演じられていた。

同保存会は、昭和 49 年発足以降、整った伝習制度のもと高度な演奏技術を維持し、例年 10 月に開催される長崎くんち及び矢上くんちでは欠かせない存在となっており、地域の芸術文化の普及・振興に大きな功績を残している。また、「シャギリ」の演目には「道中」、「片シャギリ」、「諏訪入」の 3 曲があり、特に「道中」の際に演奏される「八橋」は、長崎シャギリ保存会だけに伝承され、演奏されるものである。

「シャギリ」は、昭和 55 年 9 月 10 日に市指定無形民俗文化財に指定されており、平成 26 年 3 月 25 日からは県指定無形民俗文化財に指定されている。

また、同保存会はこれまでに長崎市市政功労表彰のほか、長崎市教育委員会功労表彰・長崎県教育委員会表彰・長崎県民表彰を受賞しており、長崎の郷土芸能を代表するひとつとして、地域文化の向上に貢献しており、これらの功績は極めて顕著である。

